



Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ

- ◆例会日/週火曜日 12:30~13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
- ◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 3 階
- ◆会長 / 橋詰 希望 ◆副会長 / 前田 博志
- ◆幹事 / 黒澤 明男 ◆クラブ広報・情報委員長 / 新井 粒太



2018~2019 年度
国際ロータリーのテーマ

NO. 1450 平成31年3月19日

◆点鐘	橋詰 希望 会長
◆SAA	両川 博之 委員
◆ソング	それでこそロータリー
◆ゲスト	朴敏貞様(米山奨学生) パクウンキュ様 チョンスンジン様

この後本人からご紹介があると思いますが、5月からアメリカのロスアンゼルスで服飾の勉強をして、帰ってきてからは日本で就職したいとのこと。活躍してホームカミングとして、菊ちゃんみたいに地区大会でお話をしてくれることを願って2年間のアドバイザーとしての言葉とします大きく成長した姿を、また見せに来てください。

【幹事報告】 黒澤 明男 幹事

【会長挨拶】 橋詰 希望 会長

朴敏貞さん、ご卒業おめでとうございます。本日は敏ちゃんのご両親が私たちのクラブに、敏ちゃんが大変お世話になったということで、わざわざご挨拶に来てくださいました。製紙会社にお勤めのお父さんは休みがあまり取れない中、土曜日に来て今日これからお帰りになるというハードスケジュールであります。

昨日長野大学の卒業式にご両親が出席されました。その後、午後7時から敏ちゃんの卒業と送別の食事会に来ていただきました。ご両親のスケジュールが分かったのが直近だったため皆さんにご案内の連絡が急で申し訳ありませんでした。それにも拘わらず新井さん、青松さん、両川さん、矢島さんのご参加をいただき計8名で上田のうな藤で会食をしました。格式あるお部屋で、日本料理を楽しんでいただきました。

ご両親は高校卒業したばかりの娘を日本に留学させることにすごい不安を持っていたそうですが、このように日本での生活も楽しんで、無事卒業できたことがうれしいと言ってくれました。敏ちゃんもロータリーの奨学生に選ばれなくて、ふつうに大学に通っていたなら、学校と寮の往復だけで狭い範囲の日本しか知らなかっただろうといい、ロータリーの奨学生になっているいろいろな経験ができ、日本を見ることができて、例会に出席して美味しいものが食べられ幸せだったといってくれました。

私も敏ちゃんが日本での生活と勉強がしっかりできるようアドバイザーとしてサポートをしていく立場でしたが、楽しくお世話ができたことを大変うれしく思います。いつも会った時に食事はしっかり食べているかを心配していましたが、美味しくなくても食べてくれて安心していました。

神津さんが李奇菊さんとヨウヨウちゃんをいつも気遣い日本の行事に参加させたり、生活の心配をしていたことは良く知っていました。私はそこまでのことはできなかったのですが、地区大会や他クラブ訪問の付添や、許される範囲で皆さんと一緒にカラオケに行ったり少しでも日本の文化などを紹介したりしました。敏ちゃんは徳永英明のレインブルーが一番の持ち歌でとてもお上手です。

1. 例会変更

上田RC	4月1日(月)	定刻受付なし
	4月29日(月)	定刻受付なし
	5月6日(月)	定刻受付なし
上田六文銭RC	5月7日(火)	定刻受付なし
蓼科RC	4月24日(水)	定刻受付なし
上田西RC	4月11日(木)	定刻受付あり
	4月25日(木)	定刻受付あり
	5月2日(木)	定刻受付なし
	5月9日(木)	定刻受付なし
	5月23日(木)	定刻受付なし
	6月13日(木)	定刻受付あり
	6月27日(木)	定刻受付あり

2. 週報

上田西・上田六文銭RC

《本日の配布物》

週報 1449号

◆出席報告 朝倉 俊次 委員

会員数 21名	出席義務者 21名	免除者 0名
本日	出席 14名	
	事前 MU 1名	66. 67%
前々回(3/5)	MU 0名	76. 19%

◆ラッキー賞

NO. 2 橋詰希望 君

次週のプログラム:3月26日

「青少年活動報告」

ガールスカウト長野県第17団

次々週のプログラム:4月2日

「ロータリーの友を知る」 滝沢義一郎氏

橋詰 希望君	敏ちゃん卒業おめでとうございます。ご両親も例会に来ていただきありがとうございます。お元気で又会う日まで！
小池平一郎君	朴さんご卒業おめでとうございます。アメリカでも頑張ってください。ご両親ようこそいらっしやませ。

青松 英和君	朴敏貞さん、ご卒業おめでとうございます。
矢島 栄一君	敏ちゃん卒業おめでとう！これからもますます頑張ってください。
加藤 輝男君	敏ちゃんおめでとうございます。アメリカ留学も頑張ってください。

【本日のプログラム】 『朴敏貞様 送別会』

皆さま、こんにちは。いつもお世話になっており、本当にありがとうございます。今日は、特別に私の両親もここに来ていますので、お話を申し上げる前に少しご紹介させていただきたいと思います。

それでは、これから、この場を借りて皆様に感謝の心と別れの挨拶を申し上げたいと思います。2年前、初めてこのクラブに来た時、私は二十で、日本に来てちょうど2年が経ったところでした。今もちろん若いですが、そのころの私は、今よりもずいぶん若かったなと思います。なぜかという、日本に来る前までの私は、毎日のように学校で夜明けから夜10時まで勉強をして週末にはいつも教会にいるのが、生活の全部だったからです。ちなみに、私は、高校3年間一回だけ夜間学習をさぼったことがありました。夕食を食べて、人数のチェックが終わった後、窓から飛び降りて逃げました。そこまでして、行ったのはお家でした。お母さんにも、さぼったと言いました。特に理由もなかったのに、今振り返ると、ただ休みたかったのかなと思います。私は、普通すぎてつまらないくらい普通な高校生でした。そんな私が、他国へ留学をするということは、鳥が卵を還して出てくることのような衝撃でした。言葉が通じなくて、いつも恐れていて、またその恐れを乗り越えられるような強さも持っていませんでした。新しい世界の中にはいたけれど、社会的には、前よりも孤立していたかもしれません。それで、最初は、ここに来るのに非常にプレッシャーを感じました。人の目や評価などが心配になったりしました。しかし、そんな心配はすぐなくなりました。橋詰さんが覚えていらっしゃるかわかりませんが、一昨年、祭りに誘われたとき、私にこのようなことを話してくださいました。「お金をいただいているからとかじゃなくて、この縁を大切に、長く交わる関係になってほしい」と。人見知りな私は、そこから、ありのままの自分であることに頑張りました。むりやりには笑わないと自分と約束しました。ただの大学生に過ぎない私に、愛情をもって声をかけてくださることも、本当に感謝で、いつもおいしい料理を食べさせていただいたことも嬉しかったです。2年間、一つ一つ言うことのできないくらいたくさん愛されたような気がします。これから私はアメリカに行ってまた新しい生活を始めますが、今度は、その新しい世界を楽しめるような強さが自分の中にできたのではないかと思います。皆様のおかげです。あらためて心から感謝します。頂いた愛情を忘れずに、私も、そのような人になるように頑張ります。2年間、本当にありがとうございました。

